

令和6年度実施事業 課題対応取組一覧表

資料11

【総合相談窓口(ブランチ)】

区名	ブランチ名	No.	カテゴリー	活動テーマ
北区	梅田東	1	地域や専門職とのつながり等	住民組織との協働により構築する気づきのネットワーク
	豊崎	2	自立支援・介護予防・健康づくり等	自分らしく生きる。地域で支える。
此花区	春日出	3	地域や専門職とのつながり等	地域から孤立しがちな高齢者の予防支援策として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する(継続実施)
西区	花乃井	4	社会資源の創設(居場所づくり等)	高齢者の参加と孤立予防、早期に相談につながるための取組
港区	港南	5	地域や専門職とのつながり等	「いつもの見守り」を力にする
	市岡東	6	地域や専門職とのつながり等	地域との関係づくりと相談窓口の周知
	築港	7	地域や専門職とのつながり等	「孤独・孤立」にならない地域を共に作る。
浪速区	浪速	8	地域や専門職とのつながり等	多様なネットワークを構築するため、地域包括支援センターと連携し、地域にある各種団体等に広く総合相談窓口の周知を行う。
	日本橋	9	地域や専門職とのつながり等	地域との連携強化～早期対応していく為の体制づくり～
	難波	10	地域や専門職とのつながり等	多様な機関とのネットワークの構築
生野区	生野東	11	地域や専門職とのつながり等	地域の実態把握と総合相談窓口(ブランチ)の周知活動をおこない、複合的な課題を抱えた世帯の支援をする
	大池	12	地域や専門職とのつながり等	・高齢者の孤立化予防と支援が必要な高齢者の早期発見 ・地域住民が早期相談できる関係づくり
	田島	13	社会資源の創設(居場所づくり等)	認知症カフェ開催を通じた地域の身近な集いの場づくり
	新生野	14	地域や専門職とのつながり等	相談内容件数が多い認知症への取組 ①総合相談窓口(ブランチ)の周知活動 ②地域にお住まいの方に対する、認知症予防についての啓発
	新巽	15	地域や専門職とのつながり等	支え合いながら安心して住み続けられる地域・関係づくり
阿倍野区	昭和	16	社会資源の創設(居場所づくり等)	認知症の方や地域の方など、誰もが気軽に参加できる「集いの場」の構築を目指して Part.2
	高松・文の里	17	地域や専門職とのつながり等	新たな相談窓口として周知をする。
住之江区	新北島	18	地域や専門職とのつながり等	かなえる体操・出前相談
	加賀屋	19	社会資源の創設(居場所づくり等)	①なんでも相談、出前相談の継続、相談窓口の周知活動
		20	地域や専門職とのつながり等	②地域住民に向け介護保険制度の理解を深める啓発活動
		21	その他(防災への取組)	③地域住民に向けた防災・減災への取組
東住吉区	白鷺	22	地域や専門職とのつながり等	地域支援機関との協働の中で「日常生活の困りごと」に注視し支援にあたる。 要支援・介護の「はざま」で生活されている方々への身近な相談窓口として活動していく。
	矢田東	23	地域や専門職とのつながり等	地域との連携を強化して早期相談につなげる
	矢田西	24	地域や専門職とのつながり等	地域高齢者との顔の見える関係性の構築に向けて
西成区	あいりん	25	社会資源の創設(居場所づくり等)	ひとり暮らし高齢者の居場所づくり、社会参加支援
	成南	26	社会資源の創設(居場所づくり等)	認知症高齢者と地域住民の共生の場
	南津守	27	地域や専門職とのつながり等	高齢化が進む地域への支援体制の構築
	梅南・橘	28	社会資源の創設(居場所づくり等)	身近な集いの場の発展から、地域住民がつながるまちづくり
	天下茶屋	29	社会資源の創設(居場所づくり等)	ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦の孤立防止の居場所づくり
	山王	30	社会資源の創設(居場所づくり等)	地域住民が参加できる多様な活動を創り、総合相談窓口との接点を増やしてゆく

課題対応取組報告書

名称	梅田東地域総合相談窓口				
提出日	令和	7	年	5	月 30 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	住民組織との協働により構築する気づきのネットワーク	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症高齢者や身寄りのないひとり暮らし高齢者が孤立した状態で生活している世帯が多く、支援が必要なケース発見及び介入が難しい。 ・マンション居住高齢者や既存の地域活動に参加していない方の実態把握が難しく、早期発見・介入のために民生委員や地域住民などの住民組織と日頃からのネットワーク構築が必要である。	
対象	住民、民生委員、地域福祉コーディネーター、北区社会福祉協議会、北区地域包括支援センター（以下「北区包括」という）等	
地域特性	・担当圏域は梅田周辺の6地域で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在した地域である。北区人口の9割がマンション等での生活となっており、梅田東・済美・堂島・中之島地域の高経年のマンション等では住人の高齢化が進んでいる。特に扇町市営住宅の高齢化率は非常に高い。 ・担当6地域全てで百歳体操が立ち上がり、徐々に地域活動も活発になってきている。梅田東・済美・北天満地域では高齢者も多く、以前より地域活動は活発である。堂島・曽根崎地域は高齢者人口が少ないものの、体操などの地域活動は定期的に行われている。中之島地域は小中一貫校の会議室を借りて新たに地域活動が開始されている。	
活動目標	・扇町市営住宅の高齢者見守り活動について、民生委員・地域福祉コーディネーター・北区包括・北区社会福祉協議会と検討実施し、支援が必要な住民について早期から見守り訪問を行い、相談しやすい関係性を築く。 ・地域活動へ積極的に参加し、参加されている地域の支援者や地域住民などへ相談窓口の周知を行い、住民組織による気づきから早期発見・介入に繋げる。	
活動内容 (具体的取組)	1.北天満小地域（扇町市営住宅）ケア会議 実施日：【1回目】R6年5月28日（火） 【2回目】R6年11月14日（金） 参加者：民生委員、北天満地域福祉コーディネーター、北区包括、北区社会福祉協議会見守り相談室、梅田東地域総合相談窓口（以下「ランチ」とする） 実施内容： 【1回目】 ・これまでに各機関で取り組んできた内容の共有と見守り体制の共有。 ・今年度の取組として、9月敬老の日に民生委員と70歳以上世帯の訪問を計画した。 【敬老の日70歳以上世帯訪問】：R5年9月5日（木） ・33世帯を民生委員とともに訪問、敬老の日のお祝い品を渡すと共に「ランチチラシ」を配布した。訪問時不在だった3世帯には「ランチチラシ」を投函した。 【2回目】 ・敬老の日70歳以上世帯訪問の結果共有と、各機関での介入状況の共有を行った。 2.地域活動への積極的な参加 ①ふれあい喫茶、食事サービスへの参加 北天満地域の食事サービス、梅田東・済美地域のふれあい喫茶、済美地域の認知症オレンジカフェに参加し、地域関係者と情報共有や直接住民からの相談を受け、早期からの介護保険申請相談や地域での見守りに繋げている。 ②百歳体操への参加 担当圏域6地域で開催されている体操に月1回参加し、地域関係者との情報共有や参加者・住民からの相談を直接受けるなど、身近な相談窓口として周知を行っている。その中でも梅田東・済美・北天満地域の百歳体操では、区保健福祉センター保健師・済生会法人内の医師・看護師と協働で体操前の血圧測定を実施し、高齢者の健康状態の把握と問題の早期発見に努めた。 ③脳活性化プログラムの実施 認知症予防の取組として脳活性化プログラムを定期的に3カ所（梅田東・北天満・堂島）で実施、認知症予防とランチ周知、参加者からの相談受付に取り組んだ。年度途中から立ち上げとなった中之島地域でも、地域からの要望を受け脳活性化プログラムを実施した。	

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1.北天満小地域（扇町市営住宅）ケア会議 ・もともと介入していた複数名とは別に8人の方について新たにランチが見守り継続、その他複数名について北区包括、北区社会福祉協議会見守り相談室、民生委員、地域福祉コーディネーターにて見守り継続となった。 ・1名について介護保険申請、認知症初期集中支援チームへの新規依頼し、認知症の鑑別診断と合わせてサービス介入に至った。 2.地域活動への積極的な参加 ・ふれあい喫茶や食事サービス、百歳体操への参加、脳活性化プログラムの実施により、相談窓口の周知に繋がった。参加者から直接相談を受けたり、参加者から地域で気になっている方の情報を頂くことで、相談件数の増加に繋がったと感じている。
今後の課題	・現在の活動を継続し、地域関係者や地域住民との関係性をさらに深めていく。 ・曽根崎地域は高齢者人口が少なく、地域活動としても体操のみしか参加できていない。地域福祉コーディネーターも新たに配置されているため、今後更なるネットワーク構築が必要と考える。 ・中之島地域では、小中一貫校の会議室を借りて新たに百歳体操を開始されている。百歳体操への参加、脳活性化プログラムの実施を継続し、住民組織とのネットワーク構築を目指す。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7年 7月 22日 （火）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	積極的に地域に出向き、様々な地域活動への参加や、マンションアプローチを続けている。顔の見える関係の構築により相談窓口の周知活動にもつながり、地域からの相談や高齢者からの直接の相談も増え、浸透性・拡張性のある取組である。 また、認知症予防の取組として脳活性化プログラムも継続して実施しており、新たな地域でも要望を受け実施を開始しており、専門性のある取組として評価できる。 今後も活動を継続し、高齢者人口の少ない地域でも、更なるネットワーク構築ができるよう期待する。

課題対応取組報告書

名称	豊崎地域総合相談窓口（ランチ）				
提出日	令和	7	年	6	月 6 日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☒ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	自分らしく生きる。地域で支える。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域ケア会議では、70代の女性単身世帯が多く、要介護1の割合が高い一方で、虐待ケースも散見される現状が浮き彫りになりました。特に、認知症高齢者の財産管理や身上監護の問題（成年後見制度の利用増）、精神疾患を抱える高齢者の在宅生活の困難化が喫緊の課題として挙げられています。また、介護家族の負担増大に伴う施設入所の検討、精神科医療への抵抗感、ヘルパー介入拒否といった複合的な問題も明らかになりました。さらに、高齢者の趣味活動や地域活動への参加促進が重要な課題であり、コロナ禍による活動停止の影響、高齢になってからの地域デビューの難しさ、スマートフォン操作を要するオンデマンドバス利用におけるデジタルデバインドなどが、地域での孤立を深める要因となっていることが示唆されました。	
対象	本庄・豊崎地域の高齢者	
地域特性	本庄・豊崎両地域は、近年、流動人口と高齢者人口がともに増加傾向にあります。住民の約9割がマンションに居住しており、大規模マンションの建設も進むことで、住民の転入・転出が非常に活発です。このため、従来の地域のネットワークが分散・希薄化しやすく、結果として地域とのつながりが少ない、あるいは孤立しがちな高齢者が多く存在しています。	
活動目標	高齢者が地域活動へ主体的に参加できる機会を創出し、孤立防止と健康寿命の延伸に寄与する。	
活動内容 （具体的取組）	今年度も、昨年度に引き続き、自宅で手軽に取り組める運動を紹介するチラシの作成・配布と、その運動方法を解説した動画のインターネット配信を継続しました。この取組は、特に外出が困難な高齢者や、自身の健康に漠然とした不安を感じている方々に対して、自宅でできるフレイル予防の機会を提供することを目的としています。大淀老人福祉センターや豊崎会館、本庄会館への掲示と持ち帰り用設置に加え、地域住民の集まる場でも積極的に周知を図りました。 本庄会館では、月例の「ふれあい喫茶」と連携した地域住民向け相談会を継続的に開催しました。相談会の周知には、地域の会館へのチラシ掲示や大規模マンションへのポスティングに加え、地域の「登校児童見守り隊」に参加し、散歩中の高齢者や出勤途中の住民への積極的な声掛けや相談会の案内を行いました。この地道な活動により、北区認知症初期集中支援チーム（以下「北区ハートフルオレンジチーム」という）との連携が必要となるような深刻なケースの相談も寄せられ、また見守り隊の方々からも「心配な高齢者」に関する情報が提供されるなど、地域住民からの情報収集と連携強化に繋がりました。 さらに、本庄地域で開催された北区ハートフルオレンジチーム主催の講演会の一コーナーとして、「健康チェック体操」を実施し、座ってできる簡単な運動を通じて、高齢者が身体活動へ関心を持つきっかけを提供しました。また、豊崎地域で大淀地域包括支援センターが主催した映画上映会では、上映後の時間を利用して成年後見制度に関する講話を実施しました。これにより、財産管理に不安を抱える高齢者やその家族に対し、専門的な情報提供と相談の機会を設けました。 その他、地域の食事会や百歳体操など、高齢者が集まる場へ積極的に参加し、総合相談窓口（ランチ）の周知を行いました。加えて、熱中症や詐欺被害、高齢者虐待への注意喚起、そして「人生会議」に関する話をするなど、多岐にわたるテーマで情報提供と啓発活動を行いました。地域ケア会議で浮上した課題を踏まえ、個別の相談会では医療機関や関係専門機関との連携を強化し、介護負担軽減に資する情報（介護保険サービスやインフォーマル資源など）をきめ細やかに提供するよう努めました。	

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	継続して配布した「自宅で取り組める運動」のチラシは、ケアマネジャーを通じて自宅に引きこもりがちな高齢者へ届けられ、「こんな風に運動したらいいの？」と具体的な興味を示す声が聞かれました。これにより、高齢者が自身の健康に対して主体的に関心を持つきっかけが提供され、フレイル予防への意識向上に一定の効果があったと考えられます。UR都市機構のマンションで実施した百歳体操も継続的に開催され、参加者からは「体を動かす良い機会になっている」との肯定的な感想が寄せられています。 本庄地域の相談会は、ふれあい喫茶と連携し、ほぼ毎月開催を継続しました。過去に支援が中断していた方や、「今は必要ないが今後を見据えて介護保険について知りたい」といった新規の相談者など、これまで相談の機会が少なかった層からの相談が着実に増加しました。相談会のチラシが各町会の掲示板に掲示されるなど、地域資源としての認知度が高まり、地域住民からの情報提供も活発化しました。特に、朝の見守り隊への参加は、散歩中の高齢者や同居家族との接点を増やし、「心配な高齢者」の情報収集に繋がるとともに、地域住民が見守り活動へ積極的に関与するきっかけとなりました。 北区ハートフルオレンジチーム主催の講演会における「健康チェア体操」の実施は、参加者から「座ってできる運動なので、無理なく続けられそう」と好評を博し、身体活動へのハードルを下げる効果がありました。豊崎地域の映画上映会で実施した成年後見制度に関する講話では、参加者から「具体的な制度内容が理解できた」「どこに相談すればよいか分かった」といった声が聞かれ、財産管理に関する高齢者や家族の不安解消に貢献しました。 また、介護負担に関する相談に対して、介護保険サービスやインフォーマル資源に関する情報提供を積極的に行ったことで、相談者の精神的負担の軽減にも繋がりました。加えて、地域住民より「もう少し人生会議についての話が聞きたい」といった具体的な要望が寄せられるようになり、高齢者の関心が高まっていることが確認できました。これは、今年度、成年後見制度や人生会議に関するさらに踏み込んだ情報提供を行うことに繋がっています。
今後の課題	高齢者の健康意識をさらに高めるためには、百歳体操や認知症予防講演、朝の声掛け、相談会といった地道な活動を継続していくことが不可欠です。特に、UR都市機構のマンションの百歳体操については、自治会長の交代という課題に直面しているため、今後は自治会との連携を一層強化し、参加者を増やすための広報戦略の検討や、継続的な支援体制を構築していくことが喫緊の課題です。 本庄地域の相談会は、土曜開催への変更により参加しやすくなったものの、ふれあい喫茶参加者の多くが直接相談につながるわけではありません。今後は、ふれあい喫茶参加者へのより丁寧な声掛けや、気軽に相談できる雰囲気づくりを工夫し、相談へのハードルを下げていく必要があります。また、本庄地域での成果を参考に、大淀老人福祉センターや豊崎地域など、他の地域への活動展開も積極的に視野に入れ、地域全体での包括的な支援体制の構築を目指します。 地域ケア会議で明らかになった、高齢になってからの地域デビューの難しさや、友達がいない人へのアプローチといった課題に対しては、既存の活動だけでは不十分な部分があります。今後は、高齢者の多様なニーズに応えるべく、様々な角度から新しい地域活動や交流機会の創出を検討し、より多くの高齢者が地域とのつながりを持てるような支援体制を構築していくことが、今後の重要な課題となります。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7年 7月 22日 (火)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	ふれあい喫茶と連携した相談会や、朝の見守り隊での声掛け運動といった、地域に根差した活動を地道に継続されており評価できる。 地域のイベント等で、積極的に高齢者に関する制度の周知啓発を行い、法人の多職種とも連携し介護予防や健康に関する運動を実施するなど専門性を生かした活動をされている。 今後は、一部の地域で積極的に行っている取組について、他の地域へも活動が展開できるよう期待する。

課題対応取組報告書

名称	春日出地域総合相談窓口（春日出ランチ）
提出日	令和 7 年 6 月 24 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	地域から孤立しがちな高齢者の予防支援策として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する（継続実施）	
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症等ケースで権利擁護支援として成年後見制度を検討して活用する際に、本人自身の意思決定を尊重しなければならない（無理をするとかかわり拒否につながる）⇒本人の意思決定支援	
対象	西九条地区民生委員児童委員協議会	
地域特性	春日出地域総合相談窓口（以下「ランチという」）の担当圏域は春日出中学校区である。 担当圏域内の高齢化率は西九条地区が30.1%、梅香地区が29.1%、春日出地区（春日出中、春日出南）が24.8%となっており、担当圏域内平均は28.0%である。（此花区全域は28.0% 令和2年の国勢調査より） 公民館、集会所、憩いの家などの利用状況は活発になってきており、西九条駅付近にはクレオ大阪西や此花会館梅香殿、此花スポーツセンターなど、社会福祉施設や文化施設等も多くの住民が利用している。 戸建ての空き家が増加している様子がみられ、一方で更地には新しいマンション建築が目立つようになっている。	
活動目標	権利擁護支援を主として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する	
活動内容 (具体的取組)	権利擁護支援講座「意思決定支援と法律行為」（7月23日事前説明、11月28日開催） ・任意後見契約（成年後見制度）、死後事務委任契約、遺言書の3項目について 本人自身の考え、思い、気持ちをどうするか。本人の意思を尊重した支援を行うことが重要であり、地域において権利擁護支援を主とした意思決定支援と法律行為についての講座を開催した。 参加者：西九条地区民生委員児童委員8名 協力：此花区南西部地域包括支援センター（以下「包括という」）	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	課題対応取組の実施3回目であり、権利擁護支援を主として地域支援関係者と連携を図りネットワークを構築するための講座を1回目、2回目に続いて実施した。 権利擁護支援の重要な考えとして意思決定支援では支援する側の視点ではなく本人の視点に立つこと。生活、人生は意思決定の連続であり、だれもが何かを選んだり迷って決められなかったり等の連続であることであり、要援護者のそれぞれの環境や状況に応じて必要な配慮や支援を行うことを法律行為に基づいた講座を受けてもらった。 振り返りのアンケートには参加者全員から理解が深まった、今後の民生委員児童委員活動に活かそうという前向きな意見を得ることができた。具体的には「もっと勉強しなければいけない」「まだまだ知らない言葉、事柄が多くて驚いた」「特に家屋と現金がある場合の事例が身近に感じられた」等の感想、気づきがあり今回の講座への関心の高さを知ることができた。3回目ということで質疑応答も多くありネットワークの形成は進んでいると考えている。	
今後の課題	物事を判断する能力が十分でない方に対する権利擁護支援のための重要な手段の一つである成年後見制度の認知度は、いまだ高いと言える状況ではないため制度理解を促進するとともに、財産管理を中心とした支援だけでなく、意思決定支援や身上監護等の福祉的な視点に立った支援もあるということも理解してもらいたい。地域を基盤とした支援において権利擁護支援は重要な機能の一つとして位置づけられ、特に意思決定支援は参加者からの関心も高く、今後も計画的に継続性をもって取り組んでいく必要がある。地域に存在が根付いている包括からのスーパービジョンを受けランチとしての役割や特性を精査し、次年度の実践につなげていきたい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7 年 7 月 1 1 日（金）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・非常に難しい制度だが、積極的に広報を行い、医師会でも相談が増えてきたという報告があり、徐々に地域に浸透してきている。権利擁護の浸透を図っている。（浸透性） ・個人の意思決定支援にも熱心に取り組み、地域に普及し成果といえる。（地域性、継続性、浸透性・拡張性） ・地域関係者の意見を取り入れながら連携し取り組み、課題解決に向け計画的に取り組んでいる。また活動からその有効性や必要性の広がりを確認している。（地域性、継続性、浸透性・拡張性） ・難しい内容を継続して続けて取り組んでおり、理解が深まっている。（継続性、浸透性・拡張性）	

課題対応取組報告書

名称	花乃井総合相談窓口（ランチ）				
提出日	令和	7	年	6	月 16 日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	高齢者の参加と孤立予防、早期に相談につながるための取組	
地域ケア会議から 見えてきた課題	【孤立する高齢者の課題】 ひとり暮らし、後期高齢者、認知症が重なると生活に支障をきたしてくる。 オートロックマンションが多く、地域とのつながりが希薄であったり、孤立している。	
対象	花乃井地域在住の高齢者	
地域特性	大阪市内では高齢化率が最も低い区であるが、近年、西区に転入する高齢者が増加傾向にある。 マンションは匿名性が高く、住民同士のつながりが形成されにくいいため、高齢者が孤立しやすい状況にある。加えて、 区外から転入した高齢者や地域に馴染みのない高齢者は、閉じこもりや認知症が進行しやすい状況にある。	
活動目標	● 高齢者の参加の場、高齢者同士の交流から孤立予防や生きがいづくりの機会をつくる ● 高齢者とランチ職員が交流する機会をつくり、総合相談窓口の周知や、課題の早期発見につなげる ● 活動内容に独自性を見出し、参加意欲の向上を目指す	
活動内容 （具体的取組）	・毎週火曜日10時～11時に開催 ・いきいき百歳体操、かみかみ百歳体操、その他、簡単な脳トレやオリジナル体操を実施 ・保健福祉センターのリハビリテーション専門職派遣（年1回） ・ランチ伝言板を配布し、総合相談窓口の周知	
成果 （根拠となる資料等が あれば添付すること）	・毎回15名程度が参加、年間延べ804名が参加 ・参加意欲の維持・向上のため、百歳体操の後にオリジナル体操の実施と、保健福祉センターのリハビリテーション専門職派遣による測定会を実施（4/16） ・高齢者が主体的に関わることができるよう、ランチ職員と一緒にオリジナル体操を作成 ・活動の前後に簡易な相談があり、早期介入のきっかけとなっている	
今後の課題	・高齢者が主体的に関わることができる内容を検討する ・引き続き参加意欲を維持するしくみを検討し、継続した参加を促す	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月10日(木)	
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・地域の方の死亡や入院状況などが、百歳体操に参加していたのに最近参加されないということで把握できた事例がある。このような地域住民が参加していく取組は、要支援者の状況把握に大変有効で高く評価できる。 引き続き百歳体操など、地域コミュニティが参加できる取組の積極的な周知、啓発を行っていただきたい。	

課題対応取組報告書

名称	港南地域総合相談窓口（港南ランチ）					
提出日	令和	7	年	6	月	30 日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☒	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（ ）		
活動テーマ	「いつもの見守り」を力にする			
地域ケア会議から 見えてきた課題	①高齢者の孤立化と見守り体制の不足 ②支援者間の連携不足と専門スキルの均質化の必要性 ③ 高齢化の進行とそれに伴う高齢者の多様なニーズの増加			
対象	地域住民、地域の商店、地域施設			
地域特性	【市岡地域】高齢化率21%で、港区の中では最も低い。JR大阪環状線と大阪メトロ中央線の弁天町駅に近く、スーパー、コンビニ、郵便本局や区役所、複数の病院があり、交通や生活の利便性が高い。若い世代の流入もあり、新しいマンションや戸建てと下町のような街並みが混在している。地域支援者の活動が活発だが、若い世帯と昔から住んでいる世帯のつながりが課題で地域支援者の若い担い手が不足している。 【田中地域】高齢化率26%。港区の中では5番目で、港区全域の高齢化率と同じである。大阪メトロ朝潮橋に近い。駅に近いエリアでは大型マンションがあるが、築30年以上経過しており、高齢者世帯も多く住んでいる。大型スーパー、コンビニ、ドラッグストア、病院があり生活利便性が高く、八幡屋公園やスポーツ施設もあり、住環境がよい地域である。他区からのひとり暮らし高齢者の転入もあり、築年数の古い住宅でひとり暮らし高齢者が多い。			
活動目標	①高齢者支援に関する情報共有と連携体制の強化。 ②連携・協働を通じた支援の質の向上			
活動内容 （具体的取組）	①「ぶらぶらだより」を発行。普段、地域の高齢者と接する機会が多い地域の商店やマンション管理人など、計38ヶ所を訪問し、総合相談窓口であるランチの周知と連携体制を構築した。 ②地域会館にて地域活動協議会やネットワーク委員会と協働、主催で高齢者虐待防止講演会を開催した。 ③港区3ランチ情報交換会を計8回実施。職員のスキルアップのための事例検討や情報交換を行った。			
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	①ぶらぶらだよりを駅、公共スポーツ施設、寺、喫茶店、マンション、保育園等、圏域内計19ヶ所に配架や掲示をしていただき、築年数の古いマンションには個別配布も実施した。マンション管理人から「心配な方」についての相談が2件寄せられた。 喫茶店と連携した結果、喫茶店の高齢者のお客様を対象に勉強会を開催するに至った。人生会議（ACP）、介護保険、認知症、成年後見制度について計4回実施。高齢者の知識向上と主体的な意思決定への意識を高めることができた。また在宅医療・介護連携相談支援室や認知症初期集中支援チームら専門機関と協働したことで地域包括ケアシステムにおける連携強化となった。 ②支援者含め55名の方に参加いただき、高齢者虐待予防や相談窓口について周知することができた。今回のイベントがきっかけで、会館の行事に参加されるようになった方が1名おられた。 ③ケース検討では、思いつかなかった視点や介入策を知ることができ、支援に活かすことができた。			
今後の課題	・ぶらぶらだよりについては、配布場所を増やすだけでなく、これまでの配布効果を測定し、より効果的な配布、配架、掲示を継続的、戦略的に実施する。 ・これまで連携を作った関係先と継続的に連携し、信頼関係を構築する。 ・外国籍の方や若い世代へのアプローチ方法として、多言語対応やSNSを活用したアプローチの検討。 ・地域の若い世帯と高齢世帯がつながる方法。			

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月25日（金）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☐ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・機関紙として「ぶらぶらだより」を発行され、地域住民の声を拾い上げ、支援に結びつけることができています。地域性、浸透性・拡張性、独自性が評価できる。 ・地域の商店やマンション管理人などを訪問し、マンション管理人から「心配な方」についての相談を受けたことは評価できる。 ・ぶらぶらだよりを整骨院や病院へ配架したり、LINEなどで発信できれば、さらなる周知が図れるのではないかと。

課題対応取組報告書

名称	市岡東地域総合相談窓口					
提出日	R7	年	6	月	30	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域との関係づくりと相談窓口の周知	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・地域とつながっていない要援護者の早期発見 ・インフォーマルな関係者との連携	
対象	地域の高齢者、マンションや公共の建物、企業、お寺、喫茶店	
地域特性	【波除地域】 高齢者人口 3,034人 高齢化率 20.8% 【南市岡地域】 高齢者人口 738人 高齢化率 23.5% (R7.3末 大阪市統計・大阪市住民基本台帳より)	
活動目標	地域の高齢者や高齢者が利用する場所に訪問し、周知チラシを配布・配架してもらい、相談してもらいやすい関係を築く	
活動内容 (具体的取組)	2総合相談窓口(ランチ) (以下「ランチ」という) 協働発行紙を制作、不定期で発行した。 ランチ機能と制度(成年後見)の紹介、津波避難ビルや喫茶店情報をマップにして掲載した マップ制作のため現地取材と情報収集(アウトリーチ) マンションや喫茶店、お寺、保育園、公共スポーツ施設、駅等 計38か所を訪問した	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	制作した配布物を配布・配架・掲示・ポスティング マンション、喫茶店、公共スポーツ施設、保育園等、計19か所 喫茶店からの依頼で勉強会を開催。人生会議(ACP)、介護保険制度、認知症予防、成年後見制度計4回 開催、在宅医療・介護連携支援コーディネーター、オレンジチームに講師を依頼し連携して行った	
今後の課題	・訪問先との継続的な関係性、そのためのアプローチ ・配布物の効果測定	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月25日 (金)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☐ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目(特性)についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・機関紙として「ぶらぶらだより」を発行され、地域住民や住民が集う場所での周知活動に真摯に取り組まれている。 地域性、浸透性・拡張性、独自性が評価できる。 ・喫茶店からの依頼による勉強会で、人生会議、介護保険制度などの勉強会を開催できたことは、効果的だと思う。 ・ぶらぶらだよりを整骨院や病院へ配架したり、LINEなどで発信できれば、さらなる周知が図れるのではないかな。

課題対応取組報告書

名称	築港地域総合相談窓口（ランチ）				
提出日	令和7	年	6	月	20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）						
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等						
	☐	その他（		）						
活動テーマ	「孤独・孤立」にならない地域を共に作る。									
地域ケア会議から 見えてきた課題	①ひとり暮らし高齢者の支援 ・圏域内の市営住宅や単身者向け賃貸住宅ではひとり暮らし高齢者の占める割合が高い。 ・ひとり暮らしの方はキーパーソンが疎遠や不在であることが多く、課題発見、介入まで時間がかかる。 ②認知症の方への支援 ・認知症がありながらひとり暮らしをされている方は、地域の方々の見守りと協力が欠かせない部分がある。 ③地域活動の参加と地域支援者の支援 ・「孤立・孤独」にならないように地域住民の皆様とお話できる場所が必要。 ・地域活動が継続できるように地域支援者と共に取り組む。									
対象	①地域の高齢者 ②地域の支援関係者と支援機関									
地域特性	高層を含め市営住宅が多く、高齢化率が30%前後と港区の中でも高い水準である。 ネットワーク委員会、民生委員協議会の活動が活発で地域見守りコーディネーターとの繋がりも強い。 65歳以上人口に対する単身世帯の割合（築港43.4%・港晴45.1%）が高い。									
活動目標	①孤独・孤立の状況を早期発見・早期対応ができる仕組みを構築する。 ②認知症がありながらひとり暮らしをされている方の暮らしを支える仕組みを構築する。 ③「孤立・孤独」にならないように地域住民の皆様とお話できる機会を作る。									
活動内容 (具体的取組)	①築港ランチ便りの発行や地域活動への積極的な参加を通じて、気軽に相談できる・信頼できる相談窓口であることの周知を行った。 ②他機関の意見交換の場に積極的に参画することで、連携できるネットワーク構築を図った。 ③効果的な予防・啓発活動に関しては、百歳体操やいきいきサロンで住民の方々の趣味・特技を生かして 活躍できる機会を創造できる内容を取り入れ、認知機能の予防・啓発活動の取組を行った。 ④相談初期から地域包括支援センター・認知症初期集中支援チーム等と連携し、早期対応・継続可能な見守り活動を行った。 ⑤ひとり暮らし高齢者に地域行事に参加して頂けるように、訪問時、チラシの案内を行い、参加の促進を行った。									
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	地域行事に積極的に参加することで、 ①地域支援者と顔の見える関係を構築し、地域のニーズや実情について把握することができたこと。 ②地域住民の口コミにより、総合相談窓口（ランチ）が気軽に相談できる窓口としての周知効果があった。 ・地域包括支援センターとの連携体制を強化することができ、情報共有・役割の確認・他機関との連携などについて、意見交換を行うこと、早期発見・早期対応の支援ができた。 ・港区の3ランチで顔の見える関係を構築し、港区全体の情報共有やランチの役割について意見交換を行い、担当圏域の支援に活用することができた。									
今後の課題	・地域活動が維持・継続できるように少ない資源でも内容が保てるように各所で行われる研修会に積極的に参加し、成功した事例や正確な社会資源情報の共有を図る。 ・孤独・孤立の状況を早期発見・早期対応ができる仕組みを構築した後に、支援に繋げる支援者が少なくなっている状況でも、工夫や新しい視点を持って課題対応ができるように意識しながら活用できる社会資源を創出する。									
※以下は、区運営協議会事務局にて記入										
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月25日 （ 金 ）									
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒	地域性	☐	継続性	☒	浸透性・拡張性	☐	専門性	☐	独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・「築港ランチ便り」を発行され、地域行事に積極的に参加することで、地域との連携に丁寧に取り組んでいる。地域性、浸透性・拡張性が評価できる。 ・百歳体操やいきいきサロンを通じて、住民の方々の趣味や特技を活かして、活躍できる機会をつくっている。 ・区内でも高齢化が顕著で孤立化が心配される。地域のつながりが強い特性を活かし、ポスティングによる周知など、今後の更なる活動に期待したい。									

課題対応取組報告書

名称	浪速地域総合相談窓口						
提出日	令和	7	年	7	月	7	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	多様なネットワークを構築するため、地域包括支援センターと連携し地域にある各種団体等に広く総合相談窓口の周知を行う。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	家賃滞納、ライフライン停止など、困りごとが大きくなった時点で、支援が必要な対象者が発見される。	
対象	コンビニエンスストア、集合住宅管理人等、地域にある社会資源や各種団体	
地域特性	浪速地域：市営住宅の集合地域で、ひとり暮らしもしくは高齢者のみで構成される世帯が多い。居住期間が長い住民の中には、顔なじみの関係が一定できている人もあるが、他区からの転居者や母国語の関係から日本語の理解に支障がある人は地域にある社会資源へ繋がりにくい。 大国地域：ワンルームマンションでの生活や転入により、地域との接点が少ない環境で生活している高齢者も多い。地域主体の活動の場に参加している住民の間では、お互いを気に掛け合う関係が構築されている。	
活動目標	①気軽に相談できる関係性を構築する。 ②積極的にニーズを把握できるシステムを作る。 ③相談を受け止め、対応する力を向上する。	
活動内容 (具体的に取組)	①ー 1 地域事業への参加（いきいき百歳体操/ふれあい喫茶/まつり/敬老事業/新年会/認知症高齢者搜索模擬訓練）＊ 1 ①ー 2 「浪速包括・ランチニュース」の配布（年 3 回）/認知症講演会・健康展への参加 ①ー 3 相談先の掲示（芦原橋郵便局・自転車） ①ー 4 ケースの報告も含めた、地域福祉サポーター/地域役員/民生委員児童委員等との連携 ＊ 2 ②ー 1 ＊ 1、＊ 2 に同じ。 ②ー 2 見守り訪問（定期） ②ー 3 総合相談窓口の周知 ・セブンイレブン・大国 1 丁目（地域包括支援センター、浪速区保健福祉課高齢者支援担当同行） ・阿倍野住宅管理センター（第 1 回定期地域ケア会議） ・浪速区生活支援課（生活支援担当新任者研修） ・浪速警察署交通課 ・地域の歴史について学ぶ（浪速区障がい者基幹相談支援センター主催） ・クリーニング店/靴店（浪速区認知症初期集中支援チーム同行） ・cafe & salon kurasu（一般社団法人えがのの樹によるコミュニティ活動） ・医療機関/薬局（ケースを通じた訪問） ③ー 1 研修への参加 ③ー 2 地域包括支援センターや他総合相談窓口（ランチ）への相談/スーパービジョン	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・前年度と比較し、相談実人員 113％に増加、相談者の内訳では、介護支援専門員/地域福祉サポーター/地域包括支援センター/本人の順で前年比 100％を超えた。 ・阿倍野住宅管理センターからの相談が 3 件あった。（近隣トラブルの背景に認知症等） ・浪速警察署との情報交換等により、個別ケースへの支援も含めた（特殊詐欺・夜間のせん妄）、地域住民の生活を守る体制づくりに繋がった。	
今後の課題	いきいき百歳体操、ふれあい喫茶等に参加されている顔ぶれが一定している。繋がりにくい人とは出会いにくい人でもあるため、新しい地域の居場所等で引き続き周知活動を行う他、他の取組について、地域包括支援センターにも相談しながら検討していく。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 7 年 7 月 2 4 日（木）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☐ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・コンビニ、住宅管理人、地域にある社会資源や関係機関と連携をとることで地域との接点が少ない高齢者をひとりにさせないという積極的な取組が見える。 ・観光客や外国の方が多く地域なので、より地域の方たちとのつながりが大事なことだと思う。 ・集会所に来られる住民の日々の暮らしを目で確かめることから感じ取り、寄り添って話を聞いて相談に乗ってもらえる。安心してお任せできることがうれしい。	

課題対応取組報告書

名称	日本橋ランチ					
提出日	令和7	年	7	月	3	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	地域との連携強化～早期対応していく為の体制づくり～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・普段から地域との関わりを大切にし積極的に地域活動に参加する高齢者がいる一方で、地域との関わりから遠のいたり、関わり自体がほとんどなく、支援に入る際には、既に認知症が進行し、日常生活が維持できない状態に陥っているひとり暮らし高齢者と認知症高齢者がいる。地域の関わりが薄いひとり暮らし高齢者や認知症高齢者が、心身の症状や生活環境が本格的に悪化する前に、地域の理解や協力を得て、早期の支援が出来るよう環境作りが必要。	
対象	※恵美、日東、新世界、日本橋地域	
地域特性	・都市中心部に位置し、観光地や繁華街をはじめ、多くのマンションやアパート群など、地域に賑やかさと華やかさがある地域である。一方で、街の賑やかさと華やかさに隠れ、地域との関わりが薄い、地域との関係自体がほとんどない、ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者が多い。	
活動目標	・総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という) が、積極的に日頃から地域の関わりをもち、地域における身近な相談窓口としてのランチの存在の浸透を図ると共に、地域包括支援センター（以下「包括」という）や認知症初期集中支援チーム（以下「オレンジチーム」という）の周知拡大に努め、早期の支援が行いやすい環境作りを目指す。	
活動内容 (具体的取組)	1. 地域の活動に積極的に参加し、地域の高齢者との顔なじみの関係づくりに努め、地域住民や地域関係者が身近に接しやすいランチを目指す。 2. 地域福祉サポーターと定期的に地域の見守り訪問活動を行うことで、日頃から顔なじみの関係づくりを図り、ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者の早期支援に繋げるように努める。 3. コンビニやアパート、マンションの管理人など地域住民や地域関係者に、ランチや包括、オレンジチームの周知活動を行う。 4. 地域の民生委員児童委員協議会に参加し、包括ランチニュースの配布やランチや包括、オレンジチームの周知活動を行う。 5. 日頃から地域高齢者や地域住民、地域関係者に挨拶や声掛けを行い、ランチの認知向上に努める。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域住民やアパートの管理人から、認知症の疑いがある入居者が心配との相談を受け、地域福祉サポーターと早期に当事者の方宅に定期的に訪問し、顔なじみの関係づくりを図り、本人より介護サービスを利用したいとの希望を受け、介護サービス利用につながった。 ・本人が、地域の知り合いからランチの存在を知り、自ら介護サービスについて相談を依頼されるケースがあった。 ・包括だけでなく近隣住民の依頼により、地域福祉サポーターと1年近く定期的に訪問し、電話連絡や地域の配布物の受け取りはされるも、全く顔を見せられなかった高齢者夫婦が、昨年春頃から直接お会いすることが出来、認知症の進行、高齢による経済的困窮、金銭管理の不安を訴えられ、包括や区役所生活支援課生活支援担当、介護支援専門員や区社会福祉協議会あんしんさぼーと事業と連携し、介護サービスの申請及び利用開始、生活保護申請及び受給決定、あんしんさぼーと事業利用開始が決まり、病気や経済的困窮による生活の破綻をかううじて防ぐことが出来た。	
今後の課題	・早期対応していくための体制づくりには至らなかったが、少しでも地域にとって、ランチや包括、オレンジチームの存在が身近であると認知されれば、認知症高齢者やひとり暮らし高齢者への支援の理解や協力を得られスムーズな支援につながり易いので、各地域において、ランチや包括、オレンジチームの存在と活動の周知活動を継続し、認知度向上を図り、早期の支援につながるよう努めていく。 ・地域と関わりが薄い認知症高齢者やひとり暮らし高齢者も、地域のかけがえのない一員として、周囲は心配し気にかけていることを、支援する側として認識を改め、今後も日頃から地域との関わりを大切に保ち続ける。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月24日（木）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・特に地域の方たちとのつながりを強くしていきたいいけない地域だと思うので良い活動をされていると思う。 ・コンビニ、住宅管理人、地域にある社会資源や関係機関と連携をとることで、地域との接点が少ない高齢者をひとりにさせないという積極的な取組みがある。	

課題対応取組報告書

名称	難波ブランチ						
提出日	令和	7	年	7	月	9	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	多様な機関とのネットワークの構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・近隣住民などとも交流がなく孤立している高齢者がおり、総合相談窓口へも繋がらず、支援に繋がらない。	
対象	高齢者と関わる関係機関（コンビニエンスストア・住宅管理会社・医療機関・金融機関）	
地域特性	・昔から住んでいる高齢者は、近隣住民は把握できているが、外出機会が少なかったり地域活動不参加であれば孤立していることも多い。 ・転入も多く、オートロックの集合住宅などでは近隣住民との交流がないことも多い。	
活動目標	多様な機関に総合相談窓口の活動の周知・利用促進を行い、困っている高齢者などに対して早期に対応を行う	
活動内容 (具体的取組)	○コンビニエンスストア セブンイレブンのネットワークの構築 ・4、5月に区、地域包括支援センター（以下「包括」という）、認知症初期集中支援チーム（以下「オレンジチーム」という）とともに協力を得られた店舗へ相談窓口の周知を行った。 ○住宅管理会社とのネットワークの構築 ・相談があった際に、管理人へ総合相談窓口の周知を都度行った。 ・住宅管理会社から相談あれば、同行訪問し本人の意向を確認しながら支援へ繋がられるように対応した。 ・3月、オートロックのある集合住宅管理人より区社協へ高齢者が増えていること等相談あり、地域活動の周知など取組を紹介し今後集合住宅内で行えることなど区社協、包括とともに話し合いを行った。 ○医療機関とのネットワークの構築 ・6月の健康展へ包括とともにブース参加、3月の認知症講演会へは実行委員会として関わった。 ・病院受診時や、退院時など、医療機関の医師や医療相談員と連携し無理なく在宅生活を行えるよう支援を行った。 ○金融機関とのネットワークの構築 ・通帳やカード紛失等で金融機関へ何度も訪れる認知症の高齢者に対し、銀行員と連携し安心していただける声掛けなど行い、その後の対応等情報共有を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・令和5年度より令和6年度の相談実人員は微増している。 ・ネットワークの構築を行い支援を行ったことで、その後も支援が必要な高齢者がいた際、総合相談窓口(ブランチ)への相談が入り介護保険サービス利用やその他サービス、見守り支援等を行えている。	
今後の課題	・継続的にネットワークの構築を行うことで、今後も孤立防止を行い早期対応が行えるようにする。 ・今後もさまざまな関係機関とネットワークの構築を行い総合相談窓口の周知、利用促進に努め高齢者本人にとって安心した生活を送っていただけるよう支援を行っていく。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月24日（木）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・高齢者の地域での孤立化を防ぐための取組が評価できる。高齢者が地域住民と接点を持ちにくい現状や、金融機関やコンビニエンスストアでの困難な状況に対してどう対応するかが、どう声をかけるかの啓発が草の根活動的に展開されて非常に評価できる。 ・集合住宅のオートロックにより地域住民の把握が難しいことから、管理人や管理会社との連携が重要であり、普段から目を配っている活動が非常に素晴らしい。これらの取組を継続することが重要。	

課題対応取組報告書

名称	生野東ランチ			
提出日	令和	7	年	6月16日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	地域の実態把握と総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知活動をおこない、複合的な課題を抱えた世帯の支援をする	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域に身近な相談窓口がわからず、支援につながっていない世帯があると想定されるため、今後の支援においては、まずランチの周知および多職種連携が必要である。 また、ひとり暮らし高齢者、認知症の親を抱える世帯の支援には、地域住民とのかかわりや支援者との連携やネットワークが必要である。	
対象	担当圏域内の高齢者および地域住民、関係機関	
地域特性	生野区内でも特に高齢化率が高い地域である。昔からの街並みが残っている一方で銭湯の閉業や区画整理がなされ、住まいを市営住宅に移してから地域のつながりの希薄化に懸念がある。	
活動目標	・地域包括支援センター（以下「包括」という）・ランチの機能の周知に努め、互いに情報提供をおこなう。 ・高齢、介護、医療分野等の多職種連携を図る。 ・地域住民に対し、認知症への理解を深める。 ・地域役員とのかかわりを深め、協力し合える関係性を構築する。	
活動内容 (具体的取組)	●生野・林寺連合での戸別訪問の実施 ・地域役員、包括、区社会福祉協議会とともに戸別訪問を実施。熱中症の注意喚起とともに包括・ランチの周知および地域の実態調査をおこなった。 ●認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の隔月開催 ・地域住民や当事者の認知症の理解を深める目的として開催。講座やものづくりをおこない、楽しみながら学べる場を意識して構成した。 ●多職種多機関との連携 ・認知症が疑われる人に対しては認知症初期集中支援チーム（以下「オレンジチーム」という）と協働し、包括とも連携・情報共有を図りながら支援にあたった。 ・オレンジチーム開催の事例検討会に参加し、認知症当事者に対する支援の視点を得ている。 ●ランチの広報・周知活動 ・区役所前にて「まちかど相談」の開催。 ・ランチ広報誌「つなごう」の作成、配架、活用。 ・地域の喫茶、モーニング、いきいきサロン、スマホカフェ、百歳体操、体力測定への参加。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	●生野・林寺連合での戸別訪問の実施 ・地域役員、包括と協働で75歳以上の世帯で介護保険サービスを利用されていない方を中心に訪問。地域役員との関係性が構築されている方が多く、円滑な聞き取りがおこなえ、綿密な実態把握につながった。ただ、日ごろから地域とのかかわりが浅い方に対しての状況把握の難しさがあった。改めて相談があった際には個別に対応し、必要な支援につなげている。 ●認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の開催 ・1部講座、2部カフェタイムの2部構成にて開催。1部の講座では、認知症予防や認知症に対する理解を深めていただくことができた。2部では各々が気軽に話し合う場となり、参加者からは「楽しめる場所があつてうれしい」「友達を誘いたい」といった声をいただいた。 ●多職種多機関との連携 ・ひとり暮らし高齢者の支援について、役割を分担して支援者間で密に情報共有しながら支援にあたった。 ●ランチの広報・周知活動 ・区役所前にて「まちかど相談」を開催。ランチの周知を目的としてランチ広報チラシを年4回作成し、地域行事や圏域内の医院、薬局、会館に配架した。目に留まるような工夫と興味を持てるような内容を簡潔にまとめて掲載している。 ・地域の喫茶、モーニング、いきいきサロン、スマホカフェ、百歳体操、体力測定に参加することで、地域役員と関係を深められ、近所の方から「心配な高齢者がいる」等のと情報を得た。	

今後の課題	・ブランチの知名度向上が大きな課題である。身近な相談窓口があるということを知っていただくために今後も周知活動を継続しておこなう。 ・認知症高齢者の増加が見込まれるため、認知症について楽しく学べる場を提供していく。また、認知症当事者の変化に気を配りながら状態を観察し、早期発見、早期対応につなげる。 ・地域や近隣住民とのかかわりを深めると同時に、関係性が浅い方との関係構築を課題とする。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月25日（金）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・地域住民をはじめ、地域役員や高齢者の身近な関係機関との関係構築や連携を行いながら、ブランチが身近な相談機関であることを周知し、早期発見・早期支援へつなげてほしい。

課題対応取組報告書

名称	大池ランチ				
提出日	令和	7	年	6	月 18 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）			
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等			
	☐	その他（ ）					
活動テーマ	・高齢者の孤立化予防と支援が必要な高齢者の早期発見 ・地域住民が早期相談できる関係づくり						
地域ケア会議から 見えてきた課題	・もともと近所付き合いが密な地域であるが、ひとり暮らしの高齢者世帯や高齢者のみの世帯の増加、高齢化や認知症・精神疾患の進行に伴い、住民同士の関係悪化やトラブルが発生することがある。 ・一方、集合住宅の町会未加入のひとり暮らし高齢者は近所付き合いが少なく、心身の状態が悪化したり、日常生活に大きな支障が出てから、ようやく相談につながるケースもある。 ・在日外国人（特に在日コリアン）の方の高齢化に伴う生活・身体の変化により、支援が必要になってきているケースが増えている。						
対象	圏域内の高齢者、地域住民、地域関係者						
地域特性	昔ながらの木造住宅が密集しているエリアがあり、長年住んでおられる方が多い。家内工業が現存する地域であり、高齢化が進んでいる。また、外国人人口の割合が生野区全体と比較して中川・御幸森圏域ともに高い割合になっている。最近では民泊が増加している。						
活動目標	・総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知活動を行う。 ・地域住民との顔の見える関係づくりを構築する。 ・支援が必要な高齢者の早期発見・早期対応を行う。 ・地域住民に認知症の正しい理解と情報を広め、認知症になっても安心して生活できる地域づくりを目指す。						
活動内容 (具体的取組)	・高齢者熱中症予防見守り訪問 地域関係者や地域包括支援センターや生野区社会福祉協議会と協力し、中川・御幸森の高齢者宅訪問を行った。熱中症予防の啓発とともに周知活動を行った。 ・町会未加入マンションや圏域内の金融機関への周知活動 町会未加入マンションへ地域包括支援センターとランチのポスターを掲示、圏域内3カ所の金融機関へはチラシを設置してもらい、周知活動を行った。 ・地域活動（いきいき百歳体操、サロンなど）への参加 地域活動へ参加し、地域高齢者・地域関係者からの直接の声を聴き、顔の見える関係を構築に努めた。 ・認知症カフェ「中川オレンジカフェ」と「御幸森オレンジカフェ」（R6年度新規立ち上げ）の開催 外出の機会や集いの場づくり、認知症予防や認知症への理解を目的として開催した。						
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・高齢者熱中症予防見守り訪問 訪問時に配布したチラシを見て相談の電話が入り、支援につながったケースがあった。訪問時に支援が必要と思われる世帯については、後日再訪問を行ったことで早期介入や必要な支援につなげることができた。圏域会議にて情報共有を行い、地域高齢者の実態把握と地域の課題抽出をすることができた。 ・地域活動（いきいき百歳体操、サロンなど）への参加 地域高齢者・地域関係者との顔の見える関係を構築に努めたことで、生活上の相談をしていただけるようになり、総合相談件数が増加、介護保険サービス以外にもいきみんお守りキーホルダー、ご近"助"パワフルサポート事業などへつなげることができた。また、大阪朝鮮会館で開催されている百歳体操へ地域包括支援センター・ランチとして初めて参加することができたことは今後の関係づくりに向けてのきっかけになったと思われる。 ・認知症カフェ「中川オレンジカフェ」「御幸森オレンジカフェ」開催 外出機会や他社との交流、「楽しみ」を提供し、認知症予防について関心を持っていただくためのきっかけづくりを行うことができた。また、今まで地域活動へ参加されたことのなかった方や町会未加入の方にもお声掛けを行い、参加してもらうことができた。						

今後の課題	町会未加入世帯など地域とのつながりが乏しい高齢者が地域で孤立することなく生活できるようにするために、ランチとしてどのように関わることができるかが課題である。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月25日（金）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	昨年に引き続き積極的に地域に出向き、地域役員や地域住民の相談を丁寧に拾い上げられ、支援につないでいる。ランチが身近な相談窓口であることを地域住民に認識されており、相談窓口としての役割を果たされている。

課題対応取組報告書

名称	田島ランチ
提出日	令和 7 年 6 月 18 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐	地域や専門職とのつながり等	☒	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（ ）		
活動テーマ	認知症カフェ開催を通じた地域の身近な集いの場づくり			
地域ケア会議から 見えてきた課題	複雑化した問題を抱えるケースでは、本人が家族や地域との繋がりがなく、孤立していることが多い。地域住民同士の関係が希薄化してきており、近隣住民同士で挨拶以上には干渉しづらいという声や、地域関係者からは近隣住民が入院・施設入所等で不在になっても分からずに困るという声も聞かれる。地域活動や見守りの担い手の高齢化が顕著で、担い手自身の活動の負担が大きくなっている方も多い。			
対象	当総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)圏域に居住の高齢者とその家族、地域関係者等			
地域特性	・当ランチ圏域における高齢者人口は、3,785人、高齢化率は約32%。 ・圏域内には鉄道の駅がないが、中心にバス通りが南北に通っている。昔ながらの長屋も多く銭湯利用者が多い。自転車移動の方が多数だが、自転車をやめると長年通っていた趣味や社交の場に行けなくなる方も多い。 ・認知症への関心は高いが、“誰もがなり得る身近なもの”というよりは、“なりたくない”、“自分は違う”といった意識の方が多く。			
活動目標	・新型コロナウイルス感染症流行期に途絶えてしまった認知症カフェを再開し、地域の身近な集いの場づくりを行う。 ・再開にあたり、認知症のある人等どなたでも気軽に安心して参加しやすい形式を目指す。			
活動内容 (具体的取組)	・令和6年9月より認知症カフェ再開に向けて、事前に地域関係者へ趣旨等の説明を行い助言も得ることで、開催時は住民への周知等協力を得られる体制づくりを行った。 ・ランチ職員のみでは当日運営が難しいため、法人内の施設職員やケアマネジャーにも協力を要請し、カフェ参加者からの相談があった際は様々な視点で対応できるようになった。 ・隔月に1回の日曜日に開催し、認知症の人の家族等、高齢者以外の若年層の方でも参加できるようにした。 ・希望者には認知症に関する情報を手に取っていただけるよう、リーフレット等の配架を行った。 ・各回開催前には、地域行事での広報や、地域関係者への周知を行った他、ランチが支援する方へ声掛けを行い、関心のある方に場を知っていただけるよう努めた。 ・おひとりでの参加者や茶話が苦手な方でも安心して過ごしていただけるよう、脳トレや体操等の内容を用意し、当日のスケジュールの工夫を行った。			
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・令和6年9月より認知症カフェを開催し、隔月に1回の開催を行った。参加者からは「楽しかった」「色んな方と話せた」という感想や「継続してほしい」という反響がある。 (9月8日15名参加、11月10日17名参加、2月9日12名参加) ・各回参加者の紹介等で、新しい方の参加もあり、交流のきっかけの場となっていた。 ・ランチとは接点のなかった方の参加もあり、カフェ開催を通じてランチの周知にも繋がった。			
今後の課題	・開催日を日曜日に設定していることで、地域住民からは「参加しやすい」という声がある一方で、関係機関から専門職に参加してもらうことが難しい。 ・認知症当事者やそのご家族へどのように情報を届けるか。また、男性参加者が少ない。 ・田島地域の南側の住民や、生野南地域の住民からは、「参加したいが遠すぎる」という声がある。 ・まだ再開して間もないため、参加者の拡大や継続して参加してもらうための工夫が必要である。			
※以下は、区運営協議会事務局にて記入				
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月25日（金）			
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性			
評価できる項目（特性） についてのコメント ※ 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・相談を待つだけでなく、地域の会館や地域行事に参加する中で、ランチが身近な窓口であることを、地域住民へ周知されおり、地域からの信頼も厚い。 ・地域住民から直接多くの相談ができる体制づくりができており、相談窓口の機能を果たされている。今後も地域とのつながりを大切にしながら支援を継続してほしい。			

課題対応取組報告書

名称	新生野ランチ				
提出日	令和	7	年	6	月 18 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（ ）		
活動テーマ	相談内容件数が多い認知症への取組 ①総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知活動 ②地域にお住まいの方に対する、認知症予防についての啓発			
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症に関するケースが多く、支援に入った時には生活に支障が出ていることがあった。 そのため、早期発見が重要である。 また、地域住民がランチに相談しやすいよう、積極的な関わりやランチの役割を行う必要がある。			
対象	異東地域在住の65歳以上の方及びそのご家族 各町会長・民生委員・女性部長等の地域関係者			
地域特性	文化住宅や長屋がなくなり建売やマンションなどが増え、町並みが変化してきている。若い世代の流入による、児童が増加傾向にある。 マンションなどの居住者は町会に加入しない事が多く地域の見守りや情報提供が難しくなっている。			
活動目標	・地域住民から困りごとや、近隣で気になる方についての相談をしやすい関係性を作る。 ・地域行事に参加されていない方に対する地域行事の周知活動 ・地域行事に参加されている方に対してのランチの周知活動及び認知症予防に関する情報提供			
活動内容 (具体的取組)	・異東地域の各町会や異東会館に啓発ポスター掲載・ランチ啓発ポスターのポスティング ・地域行事への参加（にこにこ教室・はーとちゃん教室・ノルディックウォーキングの会・異東敬老の集い） ⇒ランチの啓発、介護サービスを利用するにはどこに相談すれば良いのか？をテーマとしたミニ講座、認知症についての説明や脳トレ体操、詐欺対策などの情報提供実施 ・異東連合・異地域包括支援センターとの連携強化 ⇒地域行事等で定期的に会う町会長・民生委員・女性部長とコミュニケーションを取り、地域の状態を把握。 また、行事等で会えない方については、自宅訪問することにより、顔の見える機会を設けている ・異東地域福祉コーディネーターと協働し、いくみんお守りキーホルダーの周知・登録 ・地域行事参加者宅への複数回の戸別訪問			
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・以前介護保険申請を行った地域住民より、他の地域に住む方の介護の相談あり。 →他地域であったため、対象の地域包括支援センターに報告。 ・いくみんお守りキーホルダー新規作成者数の増加。(21名) ・百歳体操及び地域行事の新規参加者の増加。(3名) ・家族介護教室：5/21実施 異東高齢者及び異東住民 14名参加 2/25実施 異東高齢者及び異東住民 13名参加			
今後の課題	・認知症への理解を深め早期発見、早期対応や地域で見守れるまちづくり ・若年世帯（別居世帯）への認知症早期発見、相談窓口の情報提供 ・活動が再開された地域行事の周知や参加の声かけ ・町会未加入のマンションなどへの認知症予防及び相談窓口啓発 ⇒ランチ啓発ポスターや詐欺防止のチラシ等をポスティングし、相談窓口情報を発信			
※以下は、区運営協議会事務局にて記入				
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月25日（金）			
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性			
評価できる項目（特性） についてのコメント ※今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・顔の見える関係づくりを意識して地域の会館へ出向く時間を増やし、総合相談窓口としての周知活動を地道に取り組まれている。 ・地域住民との連携も丁寧に行われており、今後も継続して連携体制を構築してほしい。			

課題対応取組報告書

名称	新翼ランチ				
提出日	令和	6	年	6	月 17 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	支え合いながら安心して住み続けられる地域・関係づくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	近隣関係を濃密に保っている住民もいるが、高齢化や認知症等何らかの疾患を抱えて近所づきあいが薄れてきて、日常生活に支障が出てきてから周囲が気づくというケースが増えている。相談につながった時には心身の状態が悪化していたり、ライフラインが停まってしまっていたといったことがある。	
対象	地域住民 民生委員・地域役員・地域関係者	
地域特性	平野区と隣接する生野区最南端の地域。旧村時代の面影がある古い家並みが残る一方、内環状線や地下鉄駅周辺ではマンション・商店・飲食店など新しい建物が増えている。また、老朽化した借家が多く、退去された後の空き家も目立つ。	
活動目標	民生委員・地域役員との関係づくりの構築。 支援が必要な高齢者と早期につながり対応していく。	
活動内容 (具体的取組)	・地域行事（サロン、朝市、サンタ大作戦等）に企画から参加して地域役員とのコミュニケーションを密にする。 ・民生委員連絡会に地域包括支援センター・生野区社会福祉協議会（見守り相談室）とともに参加して、ランチの役割を説明して意見交換行う。 ・地域活動（百歳体操、高齢者食事サービス、いきいき教室等）に参加して地域の実態把握行う。 ・マンション管理室から相談があり、それをきっかけにマンション全戸に地域包括支援センター・ランチのチラシを配布周知活動行う。また家族介護教室の案内も配布する。 ・地域交流スペース「いらカフェ」の解放。	
成果 (根拠となる資料等が あれば添付すること)	・積極的に地域に出向くことで地域関係者となることができ、把握している情報等を提供してもらえた。情報により同行訪問等行い支援につながった。 ・マンション等に家族介護教室のチラシを配布して、第1回目は32名、第2回目は38名の参加があった。	
今後の課題	町会未加入、地域行事に参加されていない方、地域と関りがない方もおられるため、その方々に対するアプローチについて検討していく必要がある。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月25日（金）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・包括と連携し、町会未加入者への訪問時にランチや認知症予防について周知啓発し、早期に相談・支援につなげられるよう活動されている。 ・高齢者だけでなく、様々な世代を巻き込み地域課題を共有しながら、引き続き地域活動に参画してほしい。	